

アミーゴ会だより

2015年1月
通巻第21号
季刊 2015-I

www.mex-jpn-amigo.org



発行人：上原尚剛
編集人：河嶋正之
鴻巣勝明
事務局：笠井道彦

新年のご挨拶

メキシコ・日本アミーゴ会
会長 上原尚剛

皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様にはご一家お揃いで良いお正月をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は年末になって思いもよらなかった衆議院の解散があり、アベノミクスに対する国民の信頼を問う形での総選挙がありました。結果は既にご承知の通り与党の自民・公明の圧勝となりました。経済政策は短期間に結果を求めるのは無理と思いますので、引き続き安倍政権の下で日本経済の再生に向けた政策が継続される事になった事は良かったのではないかと期待したいと思います。

処で昨年はメキシコでも歴史に残る大きな改革がありました。ペニャ・ニエト大統領は2012年12月に就任後間もなく、野党を含む主要3党と「民主化の進展」、「経済の強化」、「人権の更なる尊重」を内容とする「メキシコの為の協約」を結び、教育、労働、通信、エネルギー、金融、財政等の分野での構造改革に乗り出しました。中でも特筆すべきは2013年に先ずエネルギー改革を進める為の憲法改正を行ない、これによりこれまでタブーとされて来た国営石油会社PEMEXの事業に対する民間投資を昨年、国内のみならず海外企業にも認める事に踏み切りました。この改革は国際的にも脚光を浴びて居り、今後日本も含めた海外からの投資が増えれば、石油産業の活性化と共にメキシコ経済も大きく発展すると期待されます。

この様な動きの中で昨年7月には先ず安倍首相がメキシコを訪問してペニャ・ニエト大統領との首脳会談に臨み、今後とも政治経済面を初めとして両国の友好関係をより一層強めて行く事で合意しましたし、更に10月には秋篠宮ご夫妻が支倉使節団訪問400年を記念しての日墨交流年に合わせてメキシコを訪問され、グアナフアトでの「セルバンテイノ国際芸術祭」の開会式に出席された後、ペニャ・ニエト大統領とも面談され、その御動静はメキシコのメディアで詳しく報道され日墨親善に大きな足跡を残されました。

他方、昨年9月の学生失踪事件を契機に国民の抗議がその後拡大して大統領支持率も急落、メキシコの「光と影」が交錯する政治危機への懸念が強まっています。詳細は別項の、神戸大学大学院准教授の高橋百合子会員にご寄稿いただいた分析報告をご一読ください。

さて、例年11月に開催していたアミーゴ会の総会とそれに伴う懇親会を昨年は3月15日に12:00から銀座のレストランZESTで開催しました。これはこれまで9月1日から翌年の8月31日までとなっていたアミーゴ会の会計年度を1月1日から12月31日に変更する事にした為、総会もその変更に合わせてのもので、林屋栄吉大使、西村六善大使を初めメキシコから帰国され御宿に住まいを定められた黒沼ユリ子さん、その御宿からも土屋さん貝塚さんも出席され、総勢50名近い会員が参加され散会まで皆さん大変賑やかに懇談されていました。昨年もアミーゴ会は「アミーゴ会だより」を4回発行し、会員の皆様に色々な情報を提供すると共に、9月にはお台場でのフィエスタ・メヒカーナへの参加などの活動を行って来ました。また同じく9月に開催されたアミーゴ会西日本の総会には東京から代表として鴻巣勝明副会長に出席頂きました。一昨年は講師の都合で実施出来なかった歴史文化講演会を、昨年は支倉使節団一行のメキシコ到着400年を記念して4回に亘りメキシコ大使館のESPACIO MEXICANOで開催致しました。第一回は5月8日に成城大学非常勤講師の伊川健二先生に「大航海時代のなかの支倉遣欧使節」の題でお話頂き、第二回は6月5日に「私の先祖は日本のサムライだった」の題で

= 目次 =

- | | | | | |
|--|----------------|-----------------------------------|--------------------|--------------|
| 1. 新年の挨拶 | メキシコ・日本アミーゴ会 | 上原尚剛会長 | ...1 | |
| 2. 新年の挨拶 | 駐日メキシコ大使 | アルマンド・アリアガ臨時代理大使 | ... 2 | |
| 3. 私とメキシコ：「メキシコ政治危機の分析：民主主義の後退？」 | 神戸大学 | 高橋百合子 | ...3 | |
| 4. 私の本棚：「ポ波尔・ヴフ西和バイリンガル版出版発表会」 | グアテマラ・マヤ文化協会 | 理事 板村哲也 | ...5 | |
| 5. 活動報告：①「御宿・日墨学生交流プログラム2014」 | 学生交流プログラム実行委員会 | 会長 土屋武彌 | ...7 | |
| | | ②「アミーゴ会西日本の事業報告」 | 鹿内竣一／「野口英世博士とメキシコ」 | M.アクーニャ ...9 |
| | | ③「Fiesta Mexicana 2014 in お台場の報告」 | 日本ラテンアメリカ文化交流協会 | 渡部暁美 ...11 |
| 6. メキシコへの誘い：「レフォルマに並ぶ歴史 その6」 | メキシコ観光(メキシコ) | | ...12~13 | |
| 7. 「2015年総会懇親会@3月14日」「仙台メキシこけし展」(4)「ゴルフ大会」「石巻に友情の大波」(8)／あとがき | | | | |

東海大学名誉教授の太田尚樹先生に、第三回は7月4日に「チマルパインの日記と支倉使節団」の題で専修大学准教授の井上幸孝先生に、そして第四回は8月8日に「メキシコ美術に見る日本～聖フェリーペデ・ヘスス」の題で愛知県立大学非常勤講師の川田玲子先生に夫々大変興味深いお話をさせて頂きました。何れも会場満員の盛況で聴衆の皆さんは熱心に聞き入って居られました。

アミーゴ会の懇親ゴルフは12月8日に湘南カントリークラブで16名が参加して行われ、幸い好天に恵まれましたが日の短い季節ですので最後の方は暗くなって心配しましたが無事全員ホールアウトする事が出来ました。毎年行っているリセオの生徒さんの訪日時に行うホームステイは昨年はどうしてもお引き受け頂く家庭が少なく、残念乍ら中止せざるを得ませんでした。今年も6月～7月にかけて訪日予定ですので、リセオの生徒さんに日本の思い出の一つでも多く持ち帰って頂く為にも今年は何としても実行したいと思っておりますので、是非皆さんのご協力を頂きたく今からお願い申し上げます。

処で御宿では昨年の日墨交流年に合わせ、交流発祥の地として「日本メキシコ学生交流プログラム」の記念事業として7月にメキシコ各地から日本語や日本文化を学びたい学生さん10名を受け入れ、彼らは研修の為約一か月御宿に滞在しました。本件詳しくは交流プログラム実行委員会会長の土屋武彌さんが書かれた別項の活動報告をご参照下さい。御宿ではこのように町を挙げてメキシコとの交流を積極的に推進されていますが、御宿アミーゴ会もNPO法人化への移行手続きを進めて居られ、町からも委託事業を受けて欲しいと積極的な支援を頂いているとの事です。また、御宿アミーゴ会には若い会員も多いとの事ですので、今後は色々な面で両アミーゴ会の交流も深めて行けたらと思います。

最後にアミーゴ会としましては、今年も「アミーゴ会だより」の発行を初め、講演会の実施など行って参りますが、中でも昨年実施出来なかったリセオの学生さんのホームステイを今年は何としても実行致したく、改めて皆さんの暖かいご支援を是非お願い申し上げます。

今年が景気が上向いて会員の皆様にとって良い年となります様心から祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

メキシコ・日本アミーゴ会会員の皆様へ新年のご挨拶

アルマンド・アリアガ臨時代理大使



創立以来13年*の長きにわたり大変有意義な成果を上げて来られたメキシコ・日本アミーゴ会に心よりお祝いを申し上げます。また、この間のメキシコに関わる数多くの行事やプロモーションの場では、皆様よりご丁寧な支援を賜って参りました。豊富な経験と知識をお持ちの会員の皆様のお蔭で、多くの日本の方々がメキシコをより身近に知ることができ、さらには人的、学術的な交流あるいはビジネス分野での関係を一層強化することができ、墨日間の理解がより深まることになりました。

メキシコ大使館にとりましては、私共が主催します諸行事の広報や今後多方面において実りある活動を相互に見出す作業に、皆様のご協力を頂きます事は大変意義深いものであります。特に毎年お台場で開催されますフィエスタ・メヒカーナに対してのご支援には感謝申し上げます。このフィエスタは在日メキシコ人社会の絆を新たにし、母国メキシコへの敬愛をも新たにするものであります。

こうした流れの一環として、2014年には「支倉使節団の歴史」に関して、優れた研究者たる大阪大学の伊川健二先生、東海大学の太田尚樹先生、専修大学の井上幸孝先生、愛知県立大学の川田玲子先生による大変興味深い講演会が開催されました。その一方で私からはメキシコに関する力強い活動を継続する事に配慮頂いている上原尚剛会長に特に感謝の意を表したいと思っております。

ビジネス、政治及びその他の分野で強固な二国間関係を構築するには常に人的交流を豊かに保つ事が必要です。それ故にアミーゴ会の皆様が引き続き友情を培われ、メキシコが観光、ビジネス、文化や生活様式などで提供出来るものを多くの人々にご教示頂ければ幸いです。

年頭に当り、今年も私達の友情を更に深める為に私達の人の輪を国中の人々に広げて行く事を願っています。

【編集部訳】

【*編集部注：メキシコ・日本アミーゴ会は2000年9月に設立され本年は15周年を迎えます】

メキシコにおける政治危機の分析：民主主義の後退？

会員 高橋百合子
(神戸大学大学院国際協力研究所)

ペニャ・ニエト政権のこれまでの評価

2012年12月に発足したエンリケ・ペニャ・ニエト政権に対する評価は、この2年間で様変わりし、今後のメキシコ政治の行方については、予断を許さない状況が続いている。ペニャ・ニエト大統領は、就任してから短期間で、彼が所属するPRI（制度的革命党）、PAN（国民行動党）、PRD（民主革命党）の三大政党勢力が拮抗する中、主要政党間における「メキシコのための協定」を結ぶことに成功し、憲法27条の改正によるエネルギー部門の改革を含む、政治・社会・経済における抜本的な構造改革を次々と実行に移した。わずか2年の短期間でこのような成果を上げたことは、国内外から高く評価された。



「メキシコのための協定」に調印
(大統領府ウェブより編集部採録)

ところが、2014年9月末、同政権に対する評価を一変させる事件が起こった。グレーロ州のイグアラ市で、教員養成大学の学生を乗せたバスが襲撃され、43人がいまだ行方不明とされている。この事件には、イグアラ前市長と市警察、および犯罪組織が関わっていることが明るみになると、公的権力に対する抗議行動はメキシコ各地へと広がっていった。この事件を発端に、市民の怒りは、腐敗した政治構造、治安問題への対処能力を欠く政府全体へと向けられるようになると、ペニャ・ニエト政権に対する評価は急降下し、その統治能力に対しては、国内外から疑念が抱かれるようになった。

発足してわずか2年しか経っていない現政権に対して、総合的な評価をするのは時期尚早であるが、こうした、政治的「危機」とも称されるメキシコ政治の現状が、民主主義にとって何を意味するのか、考えてみたい。

2000年の民主化以降のメキシコ政治

現在のメキシコにおける民主主義を評価するためには、2000年の歴史的政権交代に遡って考えることが重要であろう。2000年7月に実施された大統領選挙で、PANのビセンテ・フォックス候補が勝利した。これは、71年という長期にわたって続いた、PRIによる一党支配に終止符を打つこととなった。その後、2006年の大統領選挙で、同じくPANのフェリーペ・カルデロンが勝利し、2012年までPAN政権が続いた。その後、2012年の大統領選挙でペニャ・ニエト候補が勝利すると、12年振りにPRIが政権の座に返り咲くこととなった。

2000年から2012年まで続いたPAN政権において、政府の説明責任や透明性を向上させることによって、民主主義の質を高めるための制度改革が著しく進展したことは、特筆に値する。まず、2000年の政権交代の直前に、メキシコの会計検査院に相当する、連邦監査院（ASF）の監査権限を強化する憲法改正が議会で可決され、その細則を定めた法律が施行されたのは、フォックス政権発足直後のことであった。そして2002年には、連邦情報公開法が制定され、公的機関は市民からの情報請求に対して対応することが求められるようになった。さらに、2004年には、社会開発法が施行され、政府から独立して、政策が適切に執行されたかどうかを評価する、国家評価評議会（CONEVAL）が設立された。PAN政権下でこれらの新たな法的枠組みは効力を発揮し、特にカルデロン政権期、連邦監査院による、公的財源の不正支出に対する監査活動は活発化し、連邦監査院はその存在感を高めたといえる。

他方、PAN政権下、治安が悪化したことは否めない。カルデロン大統領が、麻薬組織との戦いを政権の軸に据え、麻薬組織撲滅に本格的に着手して以来、犯罪、殺人、誘拐等に市民が巻き込まれることになり、治安の悪化に対する市民の懸念は高まっていった。また、地方政府や警察等の公的権力と麻薬組織との癒着への疑念も抱かれるなど、民主政府の統治能力に対する市民の信頼は、この時期に低下したといえよう。このことが、2012年大統領選挙において、PRIが、PAN政権から再び権力を取り戻すことにつながったと考えられる。

ペニャ・ニエト政権下の構造改革とイグアラ事件

12年にわたるPAN政権期下、民主主義の一進一退が見られた後に誕生したのが、現ペニャ・ニエト政権であった。すでに述べた通り、政権発足直後に、主要政党間で「メキシコのための協定」の締結にこぎつけ、石油産業への外資導入への道を開く憲法27条改正を含む、抜本的な構造改革を、矢継ぎ早に実現させた。その改革は、エネルギー、通信、経済的競争性、金融、財政、労働、教育、刑法、保護請求、選挙・政治、情報公開の、11部門に及んだ。これら各部門の改革については、大統領府のウェブサイトでも専門のページが作成され、その詳細について説明されている(<http://reformas.gob.mx/>)。一連の改革を実現させた指導力が国内外で評価され、海外のメディアからは英雄視される向きもあった。

しかし、2014年9月末に起こったイグアラの学生行方不明事件、それに続く、大統領夫人の豪邸購入にまつわるスキャンダルは、ペニャ・ニエト政権に対する信頼を揺るがすことになった。イグアラ事件の真相が明らかにされず、蔓延する腐敗や人権侵害に苛立ちを募らせた市民は、抗議運動を活発化させ、その動きは国内外へと広がっていった。こうした危機的状況を食

い止めるべく、市民からの抗議に応える形で、11月27日、ペニャ・ニエト大統領は、治安問題の解決や正義を迫るための10項目の方策を打ち出した。

それらは、①憲法を改正し、連邦議会が市政府における組織犯罪の浸透を阻止する法律を制定できるようにする、②犯罪に対する連邦・州・市政府の権限を明確にする、③各州に統一した警察組織を設立する、④唯一の緊急通報電話番号を早急に定める、⑤唯一の身元確認番号を導入する、⑥治安の悪いゲレーロ州とミチョアカン州の特定の市に対して、連邦警察による特殊作戦を実施する（ハリスコ州とタマウリパス州も検討）、⑦次期開催の連邦議会に、司法改革案を提出する、⑧人権擁護のために様々な措置を講じる、⑨汚職対策について連邦議会で審議する、⑩政府の透明化を強化する、ことを内容とする。これらの詳細については、以下の大統領府ホームページを参照されたい(<http://www.presidencia.gob.mx/10-medidas-para-mejorar-la-seguridad-la-justicia-y-el-estado-de-derecho/>)。

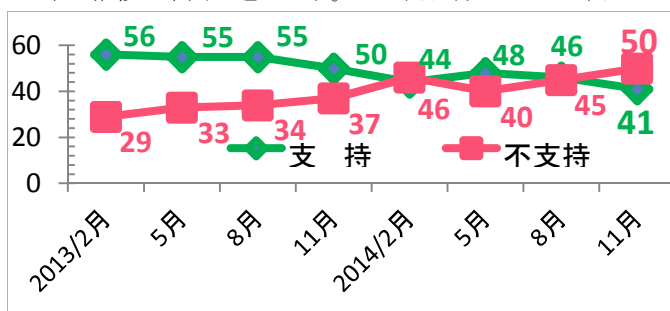
メキシコにおける民主主義の後退?

高まる市民の抗議への対応として発表されたこれらの方策が、政府に対する信頼の低下に歯止めをかけるかどうか、現時点で判断することはできない。こうした一連の、市民側、政府側の対応は、メキシコの民主主義にとってどのような意味を持つのだろうか。

2000年の歴史的政権交代を経て、メキシコは民主化したとする見方が広く受け入れられている。12年にわたるPAN政権下での説明責任を高める諸制度改革は、市民の要求に応え、民主主義の質を高めるための政権側の努力であったといえる。他方、治安の悪化は、公的権力に蔓延する腐敗体質や統治能力の欠如等、民主政府に内在する問題を露呈することとなった。これらの2つの傾向は、PRIのペニャ・ニエト政権にも引き継がれているといえる。すなわち、現在のメキシコでは、民主主義の進歩を促す動きと、メキシコ社会に浸透する腐敗構造の持続という、2つの相反する勢力が複雑に絡みながら民主主義を揺さぶっており、その矛盾がイグアラ事件をきっかけとして露呈されたとの解釈が可能である。

したがって、この事件のみに着目してメキシコの民主主義は後退したと結論付けるのは一面的な見方であると筆者は考える。今後の政府および市民の対応を注意深く考察することを通じて、政治と社会における変化を俯瞰しつつ、メキシコの民主主義の行方を見守りたい。(2014年12月18日記) <了>

【編集部注：El Universal紙12月1日付掲載の大統領支持率の推移は下図の通りです。また同日付Reforma紙は11



月調査の支持率が8月の46%から39%に「歴史的急落」し、不支持率は同50%から58%に上昇したと報じています。】

お知らせ

メキシコ・日本アミーゴ会 2015年度総会・懇親会

日時：2015年3月14日(土) 12:00~14:00

開場：11:30

総会：12:00~12:30

懇親会：12:30~14:00

会場：ゼスト・キャンティーナ G-Zone 銀座

東京都中央区銀座1-2-3

電話：03-5524-3621

URL：<http://www.zest-cantina.jp/gzone/>

会費：男性5,000円/女性4,000円

案内：会員宛て2月頃郵送・メールでご案内します。ぜひお誘い合わせのうえお出かけください。

トピックス

「メキシこけし:MEXIKOKESHI」展

メキシコ観光局が協力する展示会「MEXIKOKESHI~メキシコ x こけし=メキシこけし~」が仙台市青葉区のカメイ美術館で2014年12月23日から2015年2月22日まで開催されています。

(編集部注：カメイ美術館 <http://www.kameimuseum.or.jp/>)

この展示会は、支倉常長率いる慶長使節団がメキシコ・アカプルコ市(仙台市の姉妹都市)を訪れた1614年から400周年を記念して、メキシコとの文化的相互理解を促進する目的で、メキシコ観光局職員の志田朝美さんによって企画されたものです。

こけしは東北発祥の文化で、「メキシこけし」とは、宮城県のこけし工人が挽いた木地に、メキシコの様々な先住民族にメキシコの手工芸品作りの技法を活かして絵付けをもらった「こけし」のことです。

展示期間中には、ビーズ細工を得意とするウイチョール族によるワークショップ(2月22日)や、2014メキシコ交流年親善大使の政井マヤさんによるトークショー(1月24日)も行われます。

ミュージアムショップでは、メキシコのカラフルな手工芸品やメキシコの先住民と日本の伝統こけし工人のそれぞれが制作したこけしなどの販売もあります。

「メキシこけし」プロジェクトは、2011年3月の東日本大震災からの1日も早い復興を願い、同年冬にCHIDO PROJECTを率いる志田朝美さんが着手したそうです。

<了>
(編集部注：展示会の詳細は下記URLにてご確認ください。
<http://www.kameimuseum.or.jp/topics/2014/12/post-76.html>)



「ポ波尔・ヴフ 西和バイリンガル版」出版発表会

グアテマラ・マヤ文化協会 理事 板村哲也

メキシコ政府系出版社 Fondo de Cultura Economica より『マヤ神話ポ波尔・ヴフ』の西和バイリンガル版が出版され、その発表会が2014年9月3日17時30分より、メキシコ大使館で、在日メキシコ大使館、在日グアテマラ共和国大使館の共同主催で、文仁親王（秋篠宮殿下）と同妃両殿下ご臨席の元、開催されました。

ポ波尔・ヴフとは

「ポ波尔・ヴフ」というのは、もともとはスペイン人到来以前にマヤ圏（メキシコ南部のユカタン半島・チアパス州付近からグアテマラ、ホンジュラス、エル・サルバドル辺りまで）に存在していた数多くの絵文書の一つと推定されているものです。

スペイン人の新大陸進出の大きな目的の一つがキリスト教の布教であり、宣教師たちが、キリスト教にとっては邪教の書と考えられる先住民の絵文書を片端から焼却したため、絵文書はほとんどが失われ、焚書を免れ現在まで伝えられたのはわずか3点のみで、残念ながら「ポ波尔・ヴフ」の原本は残っていません。

現在、一般に「ポ波尔・ヴフ」の名で知られているのは、18世紀の初め、スペイン人の神父フランシスコ・ヒメネスがグアテマラのチチカステナンゴのセント・トマス寺院で発見したもので、ローマ字を使用して先住民の言語（キチュー語）で書かれた文書です。この文書は冒頭に「もとは“ポ波尔・ヴフ”があったが、無くなったので、キリスト教の世になってから、改めて書き直す」との記述があり、スペイン人到来後のある時期(16世紀半ば)にローマ字を学んだキチューの知識人がこっそりと、この部族の伝える歴史を神代にまでさかのぼって記録にとどめたものの様です。

このローマ字書きキチュー語の原本も行方不明ですが、ヒメネスによる写本とそのスペイン語訳が、『グアテマラ州インディオの起源の歴史』と題して世に残っています。この書が後日一般に「ポ波尔・ヴフ」と呼ばれるようになり、現在はこれが「ポ波尔・ヴフ」の原典になっています。因みに「ポ波尔・ヴフ」とはキチュー語で「共同体の書」、「全住民の書」と言う意味です。

「ポ波尔・ヴフ」には宇宙創世の物語や双生神の諸行や、地下の世界の物語などに続いて、1550年までのマヤ族支配者の歴史といったものが書かれており、マヤの人々のものの考え方や、信仰などを知る上での第一級の資料と言えるものであります。つまり、遺跡や遺品では分からない、原住民族のものの考え方といったもの



<メキシコ大使館エスパシオ・メヒカーノで>

のが知り得るという意味で、極めて重要な資料です。そしてまた言い方を換えれば、この本は正にラテンアメリカにおける最も古い文学書であり、古事記が日本文学史にもつ意味合いと同じ意味合いをもっていると言えるものです。

日本語訳本

「ポ波尔・ヴフ」が日本に紹介されたのは1961年で、アドリアン・レシーノス氏（グアテマラ人）のキチュー語からスペイン語への原訳（1946年）を、最初のメキシコ大使館勤務から帰国された林屋永吉氏がスペイン語から日本語に翻訳し、中央公論社より発行されました。

この初版本は970部の限定出版であったため、直ちに売り切れとなり、1971年に改版が発行されました。改版の話が持ち上がった際、再度メキシコ勤務にあり、たまたま、メキシコ画壇の巨匠ディエゴ・リベラの「ポ波尔・ヴフ」を題材とした未発表の水彩画17枚がメキシコ国立近代美術館の所有となっていることを知った林屋氏が、その使用を美術館を所管するメキシコ芸術院に願い出て特別に許可され、1971年の改版にこれらが挿画として収録されました。使用許可が有ったとき、芸術院からは、日本語訳本にこの絵を使用するに際しては同じ挿画を用いたバイリンガル版も出版することが条件づけられましたが、出版が遅れ、今回ようやくその約束を実現することになったものです。



(筆者注) 林屋永吉氏は、「ポポ・ヴフ」の邦訳と、グアテマラ・マヤ文化協会の会長として、1998年より長期に亘り日本とグアテマラの友好関係に貢献されたことにより、2011年10月にグアテマラ政府よりグアテマラの最高勲章である「ケツアル勲章大十字型章」を受けられました。(この勲章はグアテマラに3年以上駐留した大使に贈られる勲章で、グアテマラ勤務のない林屋氏への叙勲は異例中の異例のことです。)



バイリンガル版発表会

今回発行されたバイリンガル版は、開くと左頁にアドリアン・レシーノス氏のキチュー語からスペイン語への原訳、右側に林屋永吉氏のスペイン語から日本語への訳が並んでいる画期的な本です。



この挿画入りバイリンガル版の出版の裏には、駐日メキシコ大使館の出版社への強い働きかけその他の甚大な協力がありました。出版発表会は当初7月10日に予定されていましたが、出版が間に合わず延期となりました。その後、文仁親王(秋篠宮殿下)と同妃両殿下が10月にメキシコとグアテマラを訪問されることになり、両国大使館がこの発表会を両殿下ご臨席のもとで9月3日に開催することになりました。発表会ではメキシコ代理大使、グアテマラ大使及び林屋氏の挨拶の後、発行第1冊が林屋氏より殿下に贈呈されました。



この発表会およびパーティー(立食)で、グアテマラ・マヤ文化協会が特別協力をを行い、半田監事によるポポル・ヴフの解説講演と、川名理事とナレーター及びアーティストによる、ポポル・ヴフの神話の一部(人間の創造)の朗読とコンサートが行われました。



両殿下より出演者にもお声掛けやご質問があり、関係者全員にとって最高の一夜になりました。

ただ、発表会にご関心をお持ち頂いていました多くの方にご出席をして頂くことが出来なくなりましたことが残念でした。上に述べました経緯で、発表会に様々な方面の方が参加されることになったことと人数制限の関係で、メキシコ・日本アミーゴ会およびグアテマラ・マヤ文化協会からの出席者が制限され、グアテマラ・マヤ文化協会の理事のみの出席となりました。

<了>

【編集部注：アミーゴ会会員の林屋永吉大使による日本語訳とキチュー語からのスペイン語訳とが併載された、『マヤ神話ポポル・ヴフ』の出版発表会の様子を、前田直明会員の仲介により、グアテマラ・マヤ文化協会板村哲也理事に報告していただきました。当該書籍の購入方法などは詳細判明次第お知らせします。なお、林屋永吉訳『マヤ神話 ポポル・ヴフ』は現在も中公文庫で読むことができます。西語原題は Popol Vuh : Las Antiguas Historias del Quiché です。】

編集部補記

秋篠宮ご夫妻がグアテマラとメキシコを訪問

秋篠宮ご夫妻はグアテマラとメキシコの訪問(9月30日~10月10日)を終えて公表された感想文で、2015年が外交関係樹立 80周年となる初訪問のグアテマラでは、ティカル遺跡や古都アンティグアなどを興味深く見学したこと、マヤ文明の末裔による現代マヤ文化の創造を再確認したことなどに言及されています。

支倉使節団訪墨 400周年：日墨交流年に際してのメキシコ訪問については、日本人移住 100周年(1998年)来の再訪となること、多くの日本人移住者・日系人がメキシコ社会に寄与していること、オアハカのモンテアルバン遺跡などを見学したことに触れられています。また、グワナファトでの「セルバンティーノ国際芸術祭」の開会式に出席したこと、特別招待国である日本の芸術文化に触れる機会となることに期待を表明されています。

他方 NHK テレビは、秋篠宮ご夫妻が国際芸術祭の開会式で「今後も文化や芸術分野を含め両国間の協力と両国民の交流が幅広い分野で発展、深化していくことを願っております」と述べられたことを10月9日の昼のニュースで映像とともに報じました。 <了>

『御宿における日本メキシコ学生交流プログラム 2014』を終えて

日本メキシコ学生交流プログラム実行委員会 会長 土屋武彌

「支倉常長慶長遣欧使節団」のメキシコ訪問 400 周年にあたる 2013 年～2014 年の「日墨交流年」の年に、両国交流発祥の地、千葉県御宿町において「日本メキシコ学生交流プログラム」の記念事業を実施しました。

御宿で 29 日間の交流リーダー育成

このプログラムは、メキシコ合衆国内で既に日本語を学んでおり、更に日本語レベルを高め、日本文化を学びたいと考える高校・大学生を対象としてメキシコ全土から公募したプログラムでした。応募者 43 人の中から最終合格者 10 人が選ばれました。おもに御宿町に滞在して、7 月 12 日から 29 日間研修を受けるとともに、小中学校や大学での交流会、日本の伝統・文化体験、企業見学、また家族の一員として日本の生活を実体験できるホームステイなどにより、日本語と日本の文化や生活を学びました。このプログラムは単に日本語が話せるだけにとどまらず、日本の文化や社会、価値観等を深く理解し、将来両国間の架け橋となりリーダーシップをとって活躍できる人材を育成するためのプログラムでありました。御宿町にとっては、初めての長期間の大きな教育事業でもありました。

さて、2013 年 3 月末に実行委員会を立ち上げましたが、翌年 4 月になり計画を実行する前段階で難題が発生し、「日本メキシコ友好であるはずの事業」が事業資金面で想定外の状況に陥り、5 月の連休が明けてもまだ解決できずにおりました。「学生交流プログラム」は 2 ヶ月半後に迫っておりました。この膠着状態を打開する決意をしたのは 5 月 12 日の夜でした。その日は自分自身が考えていたデッドラインでもありました。それは窮余の一策でお願い（おすがり）した事業資金支援のための黒沼ユリ子先生とラファエル・ゲーラ様のチャリティ・コンサートによる協賛でした。お引き受け下さった著名な黒沼ユリ子先生と協賛者集めに奔走して下さった黒沼俊子様のご尽力に、6 月 14 日の御宿町公民館ホールは超満員の聴衆で大成功でした。このチャリティ・コンサートこそが交流プログラム準備の実質的スタートになりました。黒沼様ご姉妹とラファエル・ゲーラ様に心からお礼を申し上げます。その時には学生たちの来日は 1 カ月足らずに迫っていました。

多くの協力を得てしっかり研修

学生のためのプログラムには多くの方々の特長なご協力を頂きました。神田外語大学の柳沼孝一郎副学長様、長田厚樹執行役員・学事部部长様には計画段階から修了証書授与に到るまでご指導いただき、日本語の総合研修は学生たちにすばらしい効果を挙げる事ができました。学生たちと生活を共にし、竹内隼人講師と菅俣なつみ講師の直接指導は学生たちに驚くほどの上達をさせました。千葉工業大学の瀬戸熊修理事長様には大学の宿泊施設の使用協力をいただき快適な滞在生活を過ごすことができ、大学研究施設や東京スカイツリータウンキャンパスの展示館等での見学をし、日本・台湾・メキシコ三国学生交流パーティーの招待に参加学生たちは親善の輪を広げていきました。中央国際高等学校様は来日歓迎パーティーの会場協力や毎日の研修教室の協力、そして同校の学生交流をしていた

いただきました。

企業の皆様には就業時間中にも拘わらず丁寧なご応接とご説明を頂きました。小野正昭元駐墨日本国大使様と特別懇談会、勝浦ロータリークラブの招待と卓話体験をすることができました。

海外のメキシコからは日賀田周一郎駐墨日本国全権大使様や山内弘志公使様の特段のご支援をいただき、本事業の終了後の 9 月 5 日に日本メキシコ友好信託基金の助成もいただき辛うじて事業費を捻出するに至りました。日本国内では、アルマンド・アリアガ駐日メキシコ臨時代理大使のご支援とアレハンドロ・バサーニエス一等書記官には特別なご協力とご支援をいただき、そして NPO ワン・ワールドの皆様のご協力もいただきました。御宿町内では長期滞在研修事業に際して、御宿アミーゴ会有志各位、ホストファミリーの皆様、民宿事業主の石川清様、老人クラブの皆様等から温かい応援をいただきました。そして事業資金の一助にと協賛金のご支援を下さった方々がおられました。

学生たちが御宿町内で直接交流した小中学生はメキシコに一層の親近感を持ち、将来の友好に思いを馳せたことと思います。駐日メキシコ大使館での成果発表会、修了証書授与式に出席の各界代表者は「日本メキシコ学生交流プログラム」の成功と、2015 年も事業継続をして欲しいと、評価をいただきました。学生たちの出国と帰国には、御宿アミーゴ会会員のミカドトラベルの鈴木中様とプエブラ州立ブ・アップ大学に留学中の河東田恵様の協力をいただきました。この様にして、御宿町における学生交流プログラムは病人や怪我人を出すこともなく終了しました。

それぞれの道を拓く研修生

学生たちが残した言葉－「御宿の人たちは皆優しい。」「日本はすばらしい。」「将来、日本とメキシコの架け橋になりたい。」「世の中の役に立ちたい。」を信じて期待します。苦しんだ事業資金難こそが成功へのスタートになり、自分自身が決意するきっかけになりました。「艱難の時こそ成功あり」を実感しました。

帰国した学生たちは独自の途を歩き始めました。スペインの大学院留学推薦をもらいながら日本の大学院留学を希望している人、来年日本の大学院を目指している人、メキシコ国内の大学で外交官を目指す人、日本の大学でロボット研究を志している高校生、既に次の留学の地アルメニアで御宿アミーゴ会会員と学生交流ができたとメールで知らせる人等、若い人たちには、広い世界で未知の遭遇と可能性があります。

結びに、本事業にご協力とご支援を賜りましたメキシコ・日本アミーゴ会の皆様には厚くお礼を申し上げます。皆様にとりまして良い年となりますことを祈念申し上げます。

<了>

【編集部注：次頁に土屋さん提供記録写真の一部を掲載。】

日墨学生交流プログラム記録写真



成果発表会@メキシコ大使館



成果発表会・修了証書授与式



↑ドンドロドリゴ漂着地:田尻海岸
←大多喜城



日西墨三国交通発祥記念之碑

【編集部注：御宿の土屋武彌会員に本稿のご寄稿をお願いしました。御宿町のアミーゴたちは日墨姉妹都市交流の域を超えた新しい事業に取り組み、次世代の交流推進人材の育成に向けた文字通りの草の根交流・地域間外交を強力に進めています。】

活動報告

アミーゴ会親睦ゴルフ大会の報告

幹事 日笠 徹

恒例のメキシコ・日本アミーゴ会親睦ゴルフ大会は2014年12月8日、湘南カントリークラブで開催されました。好天に恵まれ、富士山を望む美しく難しいコースに参加者予定者16名が一名も欠けることなく意気揚々と挑戦しました。

結果は次の通りです。

- 優勝 大塚一洋 2位 加藤勝巳
- 3位 西村六善 4位 日笠 徹
- 5位 南郷茂伸 ベストグロス賞 山形純夫

競技は新ペリア方式で行われましたので、HCPに恵まれず上位入賞が出来なかった人も多々ありましたが、大塚さんが運と実力で見事優勝されました。またコンペの花と言われるベストグロス賞は、研鑽おさおさ怠らない山形さんがスコア83で獲得されました。



アミーゴ会 於 湘南CC

スタートが予定より遅れ10時半になった為最後まで廻れるか心配でしたが、案の定最終2ホールを残すころから暗闇が迫ってきましたので、急遽残り2ホールは2組づつ同時にティーオフすることにしました。そのため8つのボールがコースに点在するという滅多にない光景が出現し、プレーヤーもキャディもてんでこ舞いですが、何とか全員最後までプレーすることができ、思い出に残る一日になりました。

大会の準備や運営にご尽力いただいた上原さん、南郷さん、鴻巣さん、笠井さん、山形さん、それに大会を盛り上げて下さった参加者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

<了>

トピックス

石巻に“友情の大波”が届く

日系2世のイレネ飯田さんたちがメキシコ市で11月28日に開催したチャリティコンサート“友情の大波”で集められた義捐金が、東日本大震災で親を亡くした子供を養育している石巻市のNPO法人「子どもの家きむら」に届けられ、12月10日に贈呈式がおこなわれました。【編集部注：<http://www.miyagi-kodomo.jp/> および http://www3.nhk.or.jp/news/html/20141211/k1001390755100_0.html を参照】

メキシコで演劇プロデューサーをしているイレネさんは、震災の8ヵ月前に石巻市で支倉常長を主人公とする音楽劇を上演していたことが機縁で、震災後の石巻の支援活動を続けているそうです。

<了>

アミーゴ会西日本の事業報告

アミーゴ会西日本 代表 鹿内竣一

2014年度(平成26年度)の西日本の事業報告は以下の通りですが、内容的には懇親会のみの方に留まりました。

2014年度の報告

① ミニアミーゴ会と称している懇親会の開催

日時：2014年2月27日

場所：大阪市福島区のレストラン墨国回転鶏料理

参加者数：11名(内幹事5名)

今年のミニアミーゴ会は、大阪市内のメキシコレストランで開催しました。このレストランは、チェーン店ですが、一応それなりのメキシコ料理を提供してくれるところで、ナチョスやソパデマリスコス、またサボテン入りリゾットや、アイスクリームなども提供してくれます。参加者一同久しぶりのメキシコ料理を楽しむことができました。

また、当日「箕面メキシコ友の会」から、玉井真喜子副会長、石辻久子会計監査、平山国代元リセオ教師が特別参加され、箕面メキシコ友の会との交流を図ることができました。

なお、箕面メキシコ友の会の主たる活動は、同市の友好都市先のクエルナバカ市からの留学生の受け入れ、同市への親善旅行、多文化セミナー(メキシコ他、中南米の留学生が自国の文化などを紹介するセミナー)や、メキシコ文化のタペ(メキシコの民族舞踊や演奏を紹介)等多彩な活動を行っており、同友の会と西日本アミーゴ会との交流に努めているところです。6月29日開催の多文化セミナーには鹿内が出席しました。

② 幹事会の開催

日時：2014年7月8日

場所：大阪駅前アクティ大阪

参加者数：7人

テーマ：9月の懇親会についての打合せ、今後の行事等について意見の交換

③ アミーゴ会西日本懇親会(本祭)の開催

別項の報告をご参照ください。

今年度の事業内容は以上の通りですが、新年2月をめぐりに、関西外大の桜井教授のご講演(ラテン諸国での体験談)を予定しております。

アミーゴ会西日本懇親会(本祭)報告

2014年9月13日に恒例のアミーゴ会を、大阪で毎年開かれるフェスタメヒカーナに合わせて、梅田のスカイビルの地下レストラン四季彩で開催いたしました。

今回で13回目になりますが、第一回の懇親会は、2003



年の9月に開催しており、その際は上原会長にもご参加いただきました。あれから早13年が経ちますが、皆様方のご支援とご協力でご協力で今日まで継続することができました。

今回の参加者数は23名とほぼ例年並みで、東京から鴻巣副会長にご参加いただきました。鴻巣副会長は7年ぶりのご参加ですが、アミーゴ会の最新の活動状況、メキシコ情報、新入会員のためのアミーゴ会の目的等について冒頭にお話して頂きました。

鴻巣副会長のスピーチに続き、西日本の斎藤幹事の乾杯の音頭で懇親会がスタートし、老若男女、和気藹藹と話が弾みました。

今回の会には箕面メキシコ友の会の関係で来日した、メキシコの留学生が飛び入りで参加しましたが、今年も例年通り、歌手であり演奏家のエミリオ・モラレス氏にご登場いただきました。

エミリオ氏は1970年の日本万博の際に初来日し、1974年から大阪に在住し、自ら音楽を通じた民間外交大使と自負されておられます。エミリオ氏は今や高齢のため往時の美声は出にくくなっておりませんが、メキシカンハーブとギターで座を盛り上げて頂きました。会員で歌が得意の渡辺氏に、エミリオ氏に勝るとも劣らぬ美声を今年も披露していただきました。

エミリオ氏の典型的なメキシコ的な風貌とスタイルは捨てがたいところがあり、お元気な限り、来年以降も参加して頂きたいと思っております。

今回の会で特筆すべきことは、会員のミゲル・アクーニャ MIGUEL ACUÑA 氏(同氏は大阪でスペイン語と英語の教室を開催中)から、同氏の祖父がメリダで、かつて黄熱病の研究で有名な野口英世博士に教わったことがあるというお話がありました。20世紀の初頭に医学の分野でも日本とメキシコの絆があったというお話を、大変興味深く拝聴しました。(注：野口博士は1919年に黄熱病の研究と撲滅のため、医師団の一人としてロックフェラー医学研究所からメキシコに派遣された。別項掲載のアクーニャ氏の寄稿文「野口英世博士とメキシコ」を参照ください。)

食事とともにワインやテキーラなどを楽しみながら、参加者同士の花が咲き、今年の西日本のアミーゴ会も無事に終了しました。



アミーゴ会西日本としては、恒常的に会員の不足と幹事の高齢化の問題を抱えており、この問題を乗り越えて西日本のアミーゴ会の活性化を図りたいと考えておりますので、皆様方の今後の一層のご協力とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。 <了>

野口英世博士とメキシコ

会員 MIGUEL ACUÑA

El Dr. Hideyo Noguchi llegó en enero de 1920 a Mérida, Yucatán, México y estuvo varias semanas realizando investigaciones sobre la Fiebre Amarilla en los laboratorios del Hospital Agustín O'Horán, fue enviado por los laboratorios Rockefeller, tuvo que volver pronto porque la epidemia de Fiebre Amarilla ya había finalizado en México.

En 1920 recibió el reconocimiento de Doctor Honoris Causa en Medicina y Cirugía en la Facultad de Medicina de la Universidad Autónoma De Yucatán.

El 12 de octubre de 1975 se fundó en Mérida, Yucatán el Centro de Investigaciones Biomédicas Dr. Hideyo Noguchi, pero en 1983 el nombre de dicha institución científica cambió de nombre y desde ese año se llama: Centro de Investigaciones Regionales Dr. Hideyo Noguchi.

La ceremonia de develación de la estatua del Dr. Hideyo Noguchi se realizó el 21 de junio de 1961 y se colocó en el Hospital Agustín O'Horán de la Universidad Autónoma De Yucatán, este hospital se encuentra enfrente de la Facultad de Medicina de la Universidad de Yucatán. Es un hospital-escuela.

En este año, 2014 se cumple el 39 aniversario de la fundación del Centro de Investigaciones Regionales Dr. Hideyo Noguchi.

En octubre del año pasado se llevó a cabo en Mérida, Yucatán una carrera-caminta de 10 kilómetros para conmemorar la fundación de dicho centro de investigaciones.

También envío en formato de archivo (file) una foto de la portada del periódico de mi abuelo, Miguel Acuña Rejón.

Es un periódico de política y economía.

Mi abuelo era estudiante de medicina cuando el Dr. Hideyo Noguchi estuvo en Mérida, Yucatán, luego que el Dr. Hideyo Noguchi volvió a Estados Unidos, los médicos y estudiantes que tuvieron contacto directo con Hideyo Noguchi fundaron la Asociación de Amigos de Japón, como recuerdo grato de la amistad con el Dr. Hideyo Noguchi.

No sé hasta cuando siguió dicha asociación. Pero sí recuerdo que en casa de mi abuelo siempre se hablaba de Hideyo Noguchi.

【編集部注：以下は西日本幹事・斎藤 仁さんによる邦訳】

野口英世博士は 1920 年 1 月にメキシコはユカタンのメリダに到着し、数週間滞在してアグスティン・オーラン病院の研究室で黄熱病の調査を行いました。

彼はロックフェラー研究所から派遣されており、メキシコでは黄熱病の流行が終わりを迎えていたので間もなく米国に戻らねばなりません。

彼は 1920 年にユカタン自治大学医学部の薬学・外科名誉博士号を受けました。

1975 年 10 月 12 日、ユカタン州メリダに野口英世博士生物医学研究センターが設立され、その後、1983 年にその科学研究施設は名称変更が行われ、以来、「野口英世博士地域研究センター」と呼ばれています。

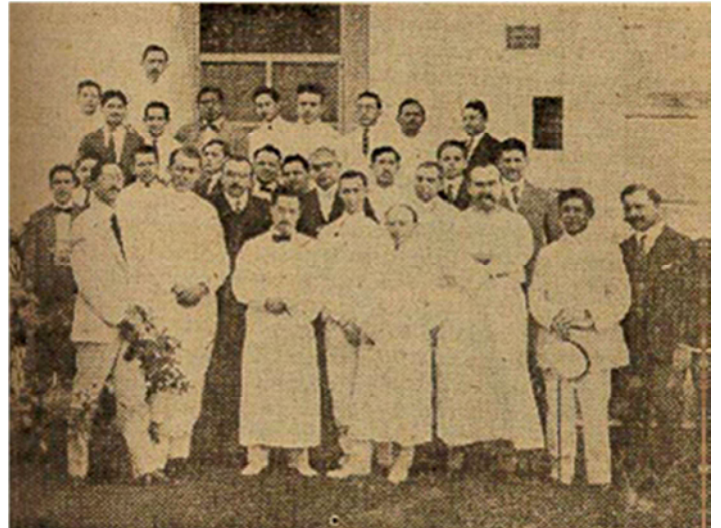
野口英世博士の銅像の除幕式は 1961 年 6 月 21 日に行われ、その像はユカタン自治大学のアグスティン・オーラン病院に設置されました。この病院はユカタン自治大学の医学部正面に位置しており、これは大学病院となっています。

今年 2014 年は野口英世博士地域研究センターの 39 回目の記念の年となります。

一昨年 10 月、ユカタン州メリダにおいて同研究センターの設立を記念して 10 km の競歩大会が行われました。

同時に、ファイル形式で新聞の一面に掲載された私の祖父ミゲル・アクーニャ・レホンの写真を送ります。

この新聞は政治・経済に関する新聞です。



Fotos de enero de 1920 del Dr. Hideyo Noguchi y médicos yucatecos en el Hospital "Agustín O'Horán" de la ciudad de Mérida, Yucatán

私の祖父は野口英世博士がメリダに滞在していた時に医学部の学生でした。野口博士が米国に戻った後、野口博士と直接コンタクトがあった医師と学生が野口博士との懐かしい思い出として「日本の友人たちの会」を設立しました。

この会がいつまで続いたのかは知りません。でも、私の祖父の家ではいつも野口博士のことを話していたのを覚えています。

アクーニャ ミゲル

【訳者注：MIGUEL ACUÑA 氏の甥子の DR. MIGUEL MARTIN ACUÑA LIZAMA は野口英世博士地域研究センターにおいて、カフェインを使ったパーキンソン病の治療研究を行い、ユカタン大学医学部で表彰を受けております。】

【編集部注：野口博士の中南米諸国等での活躍ぶりは山本厚子著『野口英世は眠らない』（2004 年 10 月集英社刊）に詳しく紹介されています。立像建立の由来についても記述があります。】



Fiesta Mexicana 2014 in お台場 Tokyo ご報告

野外のイベントの醍醐味は、晴天のもと…!! とにかく成功か否かは天候に左右されるものです。

今年は9月13日～15日の3日間、実行委員の願いが天に届いて素晴らしい天候に恵まれました。そして国際色豊かな多くの方々に来場していただき、盛大なフィエスタとなりました。2000年にスタートしてから今年は15年目という記念すべきフィエスタでしたが、これも協力・協賛・ボランティアして頂いた多くの方々の協力のおかげと心より感謝している次第です。

飲食ブースが22店舗、物販ブースが10店舗、加えてプロモーションブースが立ち並ぶ“カジェ・テル・メルカード”は多くの来場者でにぎわいました。タコスを楽しみながらメキシコのビールやテキーラを飲んだり、色彩豊かなメキシコの民芸品のショッピングをしたりと、皆さん大いに楽しんで頂けたことと思います。

それに人気を呼んだのは“プラサ・メヒコ”で昨年から始まった“ルチャ・リブレ”でした。メキシコ特有のマスカラを被ったレスラーが、メキシコ風にストリートでファイトするという想定で毎日2回行ないました。始めてルチャを観た方々にも大好評で沢山の観客が声援を送りながら楽しんでいました。子供達に大人気のピニャータ割りもリングの上で行なうようにしました。案の定子供達とその親御さんたちには好評でした。

メインステージの“プラサ・テル・ソル”では、グアダハラからやってきたお馴染み「マリアッチ・アガベ」が演奏、それに日本人のラテン歌手たちが花を添え、更に在日メキシコ人会の舞踊グループ「メヒコ・エン・ラ・ピエル」や、フィエスタ・メヒカーナの始めから出演していただいている「ラス・パロミータス」、それに「ダンサ・メヒカーナ」等の民族舞踊グループが華やかさを演出してくれました。

プロモーションブースでは、今年初めてグアナファト州観光省が出展、そして常連となっていた御宿町・御宿国際交流協会からは、ゆるキャラの「エピアミーゴ君」が来てくれて大騒ぎ、子供達に大人気！一緒に写真を撮っていました。

大抽選会も各出展社の皆さんの協力もあって多くの賞品が集まりました。今年はアエロメヒコ航空提供のメキシコ往復航空券が観客の中から当選者が出て大いに盛り上がりました。とにもかくにも3日間好天に恵まれ、今年の「フィエスタ・メヒカーナ」は成功裏の内に終わりました。このイベントは、皆さんに明るく楽しいメヒコを感じて過ごしていただけるよう、実行委員一同努力を重ねておりますが、何といたっても陰でイベントを支えて下さっている皆さんのお力添えが大変重要です。

今後も「メキシコ・日本アミーゴ会」のご協力・ご支援をよろしくお願い致します。2015年は、9月19日・20日・21日の3日間の開催が決定しております。是非会場にお越しいただき、メヒコを存分に味わって頂きたいと思っております。



レフォルマに遊ぶ歴史⑥

～銅像でたどるメキシコ偉人案内～

[編集部注：メキシコで活躍している若いお二人の力作その⑥をお届けします。通常の旅行ガイドにも載っていない内容で本邦初演とも言えるものです。これであたかも“レフォルマ通”です。筆者は山内さん(チケット課)と酒井さん(バ Rica トラベルネットワーク課)です。お楽しみください。]

メキシコ観光(メキシコ) 山内勇志/酒井梢恵



Don Juan Antonio de la Fuente (地図中 20)

ファン・アントニオ・デ・ラ・フエンテは1814年2月18日、コアウイラ州 Saltillo にて生まれる。1867年6月9日、生まれた街にて永眠。享年 53 歳。

幼いころから勉学が得意だった彼はカトリック司祭かつ医者である Valdés と José María Valle の勧めにより、グアダラハラにて医者を目指していた。

しかし彼の才覚は法律にて姿を現した。

3 年間医者の勉強をした後、元々合わせて勉強していた弁護士の資格の為に医者学科を辞め、無事弁護士となった。

彼の政治家としての活動は 1857 年から始まった。当時の下院議員の構成するグループに参加し、大蔵省の大臣からの任務や、外務省での任務を遂行していた。確実に評価を上げていった彼は 1859 年、Benito Juárez 大統領に協力し、メキシコの土地をアメリカに永久に売却する法案であるマクレーン・オカンポ条約に反対を唱え続けた。

その後、Juárez 氏が辞任の際に、彼の推薦により法務省に入り、今のメキシコに大きく影響を与えた「宗教の自由の法律」を制定した。



JUAN ANTONIO DE LA FUENTE
CÁRDENAS 1814 - 1867

彼を称えるファンは少なくない

出所：メキシコ政府公式 HP

<http://www.sre.gob.mx/index.php/cancilleres-siglo-xix>



Gral. Don Pedro Jose Mendez (地図 21)

ヘネラル・ドン・ペドロ・ホセ・メンデスは 1836 年 11 月 22 日、タマウリパス州 Villa Hidalgo にあった荘園 San Agustín にて生まれる。1866 年 1 月 23 日永眠。享年 29 歳、ヘネラル (将軍) の若すぎる死だった。

6 歳だったペドロはタマウリパス州 Ciudad Victoria の小学校に入学した。その後すくすくと成長し 16 歳になった時、平凡な男の子であった彼に人生の転機が訪れた。それは父親の死だった。父の死後、彼は生まれた田舎街に戻り、家族の世話をしなければならなかった。日本でいうと中学 2 年生の歳だ。まだ遊びたい盛りの年頃であったが、彼は亡き父に心配をかけないよう必死に世話や勉学に取り組んだ。

そんなペドロには、いつも考え方に共感を覚える人物がいた。当時初の先住民大統領であった Benito Juárez 氏だ。また当時のメキシコ国憲法を称え、誠実であろうとしていた。

Juárez 政権が始まった翌年の 1862 年 11 月 23 日、フランス軍はメキシコを支配下に置く為にタンピコより入港し、フランス干渉戦争が勃発した。Juárez 氏を、メキシコの憲法を、崇拜していた彼がメキシコの危機に黙っているわけが無かった。メキシコ軍の将軍 Garza Macedonio 将軍の助けを借り、1863 年 1 月 18 日、フランス軍に立ち退くよう闘い続けた。その功績が認められ、ペドロにメキシコ国軍の中尉の座が与えられた。

1865 年 6 月 4 日、彼が育った街でもある Ciudad Victoria (勝利の街) でフランス干渉戦争の中の一つである【Tula の戦い】が勃発した。ペドロはその町の名前の通り見事に戦いに勝利を収め、Juárez 氏は彼に

将軍の階級を与えた。祖国を愛する気持ちで我武者羅に努力を重ねた結果、幼いころから尊敬する Juárez 氏に認められた。ペドロがその時どんな思いだったかは、私達が想像するよりも遥かに深いものだっただろう。



Ciudad Victoria では彼の追悼が毎年行われる

幸せの絶頂にいた彼だったが、翌年 1966 年、最大の悲劇が訪れた。約 200,000 ペソ (約 1, 600,000 円) の敵国の護送船団を襲撃の際に、胸に銃弾を受けたことが致命傷となり、戦死した。享年 29 歳というあまりにも早すぎる死となってしまった。

死の間際、彼は仲間たちに言った。

**“ME HAN MUERTO, NO DESMAYEN”
Señalando a los franceses concluyó
“AHÍ ESTÁ EL CAMINO”**

「私は死んでしまう、しかし、気を失うな。」
フランス人達を指差しながら言った。
「あそこに道があるのだ。」

自分の死に一切悲観することなく、最後の瞬間まで自分を慕っている仲間たちに激励を飛ばす、彼こそが本当のヘネラルの名に相応しいと私は思う。

<了>

あとがき：新年明けましておめでとうございます。四季報『アミーゴ会だより』は今号で通巻第 21 号となり、早くも創刊 6 年目に入ります。これまでの会員の皆様のご協力に感謝するとともに、引き続き各位のご協力を得て魅力ある誌面づくりを目指たく存じます。いま、メキシコ社会では「新旧の相貌」がせめぎあっているようです。従来指摘される「二つのメキシコ」を克服し、いっそう魅力あるメキシコへの脱皮を期待します。メキシコ・日本アミーゴ会の 2015 年度総会・懇親会は 3 月 14 日 (土) の昼に開催されます。ぜひご出席ください。なお、本誌既刊号はすべてアミーゴ会の HP(<http://www.mex-jpn-amigo.org/>) で公開しています。お役立ち情報も満載です。ご友人知己にもご紹介のうえご活用ください。新年に相応しい新発見がありますよ。[か 20141226]